

## 会員の広場



### 損保業界不祥事

#### 実は短い「コンプラ強化」の賞味期限

吉村 輝寿（東京）

この二、三年、損保業界では不祥事が相次いだ。

旧ビッグモーターによる保険金不正請求、企業向け保険の価格カルテル、計250万円の個人情報漏洩などである。同じ金融業界

である銀行出身の筆者も呆れるほどだ。

ただ、「銀行はより進んでいた、コンプライアンスの意識が高かったのか」と言われれば、それも正しくない。

小説「金融腐食列島」に出てくるような不祥事が重なり、銀行はマスコミから徹底的に叩かれた。金融庁からも「金融検査マニュアル」で法令遵守を厳しく指導され、ようやくコンプライアンス態勢が整ったのだ（それでも個別の違反事例は無くならないが）。損保業界はこうした洗礼を受ける機会が少なかっただけのことである。

企業の目的は利益追求であり、それに反する動きに元来後ろ向きだ。「コンプラを徹底すると営業活動の妨げになる」といった考え

は容易に改まらない。社内規定を作り、担当

部署を設置し、研修を実施すると「取り敢えず、ここまでやっておけば大丈夫だ」と、一段落つけてしまうのだ。「毎日の業務にコンプライアンス上、問題となる点はないか」といった、具体的な見直しには先ず至らない。

変に「このやり方はコンプラ上まづいのは」といった指摘をすると、「世の中、建前と本音だよ」「今までこれで、特に問題も起きなかった」「余計なことを考えず、毎日の仕事に集中するように」と、間違ったことを言っただけのような扱いを受ける。

結果としてコンプラ違反は放置され、ついには不祥事が発生し、マスコミから厳しく追求される。損保業界は、まさにこうした状態

にある。

損保業界の体制立て直しは、これからが本番だ。「コンプライアンスに真剣に取り組まねば」と、社内の風向きも変わったはずだ。今なら「このやり方はおかしい」と声をあげても、周囲から潰されることはない。

だが、この風はいずれ止む。必ず営業サイドから「これでは厳しすぎる。商売ができない」との声が上がり、揺り戻しが始まる。「コンプラ重視」の賞味期限は予想以上に短い。このことを意識しながら、態勢整備のスケジュールを立てなければならない。三年計画では長過ぎる。後半がウヤムヤになる。一年目に重要な部分は完成させ、二年目はフォローアップを行うイメージで取組んでほしい。